

「21世紀の市民協働型シティホール」の概要について

厚生会館地区に整備するシティホールの設計者が、日本を代表する建築家“隈 研吾”さんに決めました。「ながおか市民センター」で培ってきた「市民協働」の成果とノウハウを、公会堂、市役所、屋根付き広場が一体となった「21世紀の市民協働型シティホール」に生かしていきます。



上:「ながおか市民センター」での賑わいの様子
左:シティホール“中土間”の賑わいのイメージ

基本コンセプト

○まちに開けた“中土間”

庭のようでも部屋のようにもある“中土間”(=「屋根付き広場」)は、建物中央に挟み込まれるように配置されていて、いろいろな人が気軽に立ち寄り、活動できる空間です。

○公と民のモザイク

市役所的な機能と市民活動的な機能が、市松模様のように交ざり合った計画になっています。市民が活動する場所のそばで市役所の人働くということが実現され、市松模様は、壁面や大屋根のパターンとしても表現されています。



左上:市民に開放された屋上庭園
左下:大手通りに面した大きなエントランス
右下:市民の憩いの空間「空中いりり」



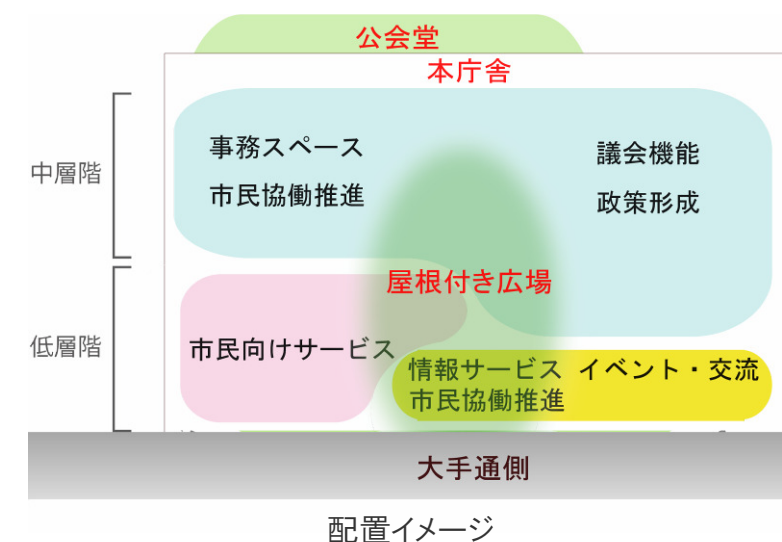
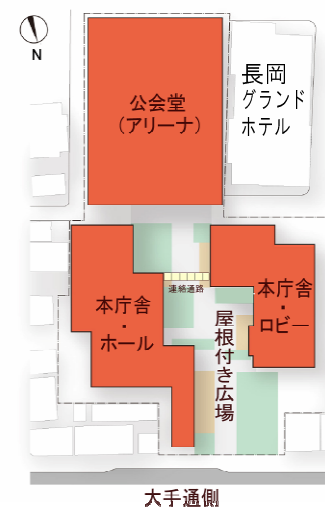
施設構成の考え方

○公会堂

“ハレの場”としてプロスポーツ、イベントや式典など最大5,000人が集まれる「アリーナ」、発表会や講演会が開催できる可動式の椅子席のある「文化ホール」、ダンスなど市民団体の活動の場となる「市民活動ホール」を屋根付き広場のまわりに配置し、“ついで効果”とにぎわいの波及をねらうとともに、情報の受発信の場などを整備し市民協働を推進します。

○市役所

誰もが入りやすい低層階に市民向けサービスの窓口を配置します。また、議会をシティホール内に配置することで、市民との接点を増やし、より身近で開かれた議会をアピールします。



今後のスケジュール

- ・市民の皆さんの意見を聴きながら、平成21年夏まで設計(基本、実施設計)を行います。
 - ・その後、平成21年秋に着工し、平成23年秋に完成する予定です。
- ※ 厚生会館は、平成21年2月から取り壊しを行います(平成20年12月末までは一般利用可能)。
また、工事期間中は、中小ホールの代替施設として周辺の空きビルを借りる予定です。